

部署紹介

大学図書館 狭山図書館



○業務について

大学図書館は板橋図書館・狭山図書館の両館で1つの図書館を運営しています。蔵書は約 50 万冊(2021 年 3 月現在)あります。図書館での業務というと、カウンターでの貸出・返却が主な仕事と思われるがちですが、たいへん多岐にわたります。「資料管理」、「研究支援」、「利用支援」の順にご紹介していきます。

まずは、図書館の根幹である「資料管理」。

利用者への図書・雑誌の提供はもちろん、電子ジャーナル、電子ブック、データベースなどについても提供・管理を行っています。また、東京家政大学図書館特殊コレクションのアーカイブ等の整備も行っています。

「研究支援」では、東京家政大学機関リポジトリによって、本学所属教員による研究成果の発信・提供を行っています。機関リポジトリでは教育・研究支援課が管理する東京家政大学研究者情報データベースとも連携し、情報提供を行っています。

最後に「利用者支援」についてご紹介します。

近年、特に増えているのが、学術情報リテラシー教育支援の業務です。

教員からの依頼を受け、授業時間において、図書館職員が学術情報を利用する際に必要な知識や方法を学生に説明します。

図書館職員が作成した、「東京家政大学生のための情報リテラシーテキスト」を教材として使用しています。テキストは常に最新の情報が提供できるよう、毎年改訂を繰り返し、作成をしています。

この学術情報リテラシー教育支援は、図書館職員の情報収集・提供能力のほか、プレゼンテーション能力も必要とされる業務です。

また、学生さんとの協働活動として、図書館学生ボランティア団体 Library Mates(板橋)と Sayama Book Friends(狭山)の活動を支援しています。図書館キャラクターの考案、しおり・ビニール袋の図書館グッズの作成、選書ツアーなど活発な活動を行っています。

施設面においては利用者の学習に合わせた整備を進めています。「学びへの^{いざな}誘い」をテーマとしたラーニングcommonsでは、アクティブラーニングなどの多様な学習形態に対応しています。また、ここでは、連続講座などのイベントを学修・教育開発センターとの共同運営によるラーニングcommons運営委員会が開催しており、新たな知の発見に結びつけています。

以上のように、大学図書館は従来の静かな図書館のイメージとは違う、アクティブな活動に取り組んでいます。

○応募者へのアドバイス

ご紹介したとおり、大学図書館は学術情報の提供・整備だけが業務ではなく、利用者(学生・教職員)と接する機会が非常に多くあります。

「本が好き」もちろんですが、「人が好き」な方にぜひ活躍していただきたい部署です。

柔軟な発想・感覚で、一緒に図書館業務の提案・企画・運営ができる方をお待ちしています。

ぜひ一緒に大学図書館を、そして東京家政大学を盛り上げていきましょう！